

# 令和3年度 授業改善推進プラン 英語科 (大森第三中学校)

## 昨年度の授業改善推進プランの検証

### ★取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で、英語に対する意欲やコミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テストや定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や予習における家庭学習の習慣化を意識させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

## 英語の内容別結果の分析 (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○校内平均正答率は、目標値を5.9P(ポイント)上回っている。ただ、区の平均値は0.8P下回っている。 ○リスニング力は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を13.3P(ポイント)上回っている。区の平均値においても、3.7P上回っている。 ○リスニング力は良好である。	○校内平均正答率は目標値を6.7P(ポイント)上回っている。ただ区の平均値は5P下回っている。 ○リスニング力は良好であるが、さらなる定着を図る必要がある。
読むこと	○校内平均正答率は、目標値を4.5P上回っているが、区の平均値は2.8P下回っている。 ○簡単で短い文章を理解するため、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。 ○音読に対して抵抗感を示す生徒はあまりいない。大半の生徒が音読に意欲的に取り組んでいる。	○校内平均正答率は、目標値を8.1P上回っている。区の平均値においても0.5P上回っている。 ○長文や対話文などの読み取りはよくできているが、語彙力をつけたり、内容や要点の把握、質問に英語で答えるなど定期的な練習が必要である。	○校内平均正答率は、目標値を1.1P下回っており、また区の平均値を7.4P、全国平均値を7.7P下回っている。 ○長い英文を読み取るために、今後も引き続き、練習をしていく必要がある。また、語彙の知識・理解においては、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。
書くこと	○校内平均正答率は、目標値を6.9P上回っている。区の平均値においても0.3P上回っている。 ○一部の生徒は他の技能に比べ書くことに苦手意識をもっているため、今後の基礎練習の積み重ねが必要である。	○校内平均正答率は、目標値を16P上回っている。区の平均値においても5.1P上回っている。 ○特に単語を正しく書いたり、自分の得意なことについてまとめた英文で書くことがよくできていた。しかし、現在進行形やhowなどの疑問詞を含む疑問文の答えなどを正しい語順で書くことが今後の課題である。	○校内平均正答率は、目標値を1.6P上回っている。ただ、区の平均値を7.8P、全国平均値を5.6P下回っている。 ○英文を正しい語順に並べかえて書くことや、自分のしたいことについて、具体的な説明や理由を書くことなど、今後も引き続き、まとめた英文を書く力を養う必要がある。

## 英語の観点別結果の分析 (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	○校内平均正答率は目標値を7.3P上回っているが、区の平均値よりも1.5P下回っている。 ○基本的な語彙や文法を復習する必要がある。 ○徐々に異文化理解の機会を増やす。 ○日常会話や対話文に慣れ、何が問われているのか読み解く力をつけることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を14.4P上回っている。また区、全国平均値よりも上回っている。 ○単語を正しく書いたり、所有代名詞の形に関する語形・語法を書くことがよくできていた。しかし、一般動詞過去の疑問文を中心に、基本的な語彙・文法を復習し、さらなる語形・語法の定着を図る必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を2.4P下回っており、区の平均値を5.6P、全国平均値を6.9P下回っている。 ○比較表現を用いる文の構造や様々な単語を復習する必要がある。
思考・判断・表現	○校内平均正答率は、目標値を3.6P上回っており、区、全国平均と同等の数値が出ている。 ○今後外国人講師と連携し、自ら進んで会話ができるように、実践的な表現活動の場面を設定していく必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を12.2P上回っている。また、区、全国平均値も上回っている。 ○自分の得意なことについて、まとめた内容で説明する文を書き表すことがよくできていた。しかし、英語でたずねる文を書くことや資料の読み取り、必要な情報や条件から判断することが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を5.2P上回っており、区の平均値を9.5P、全国平均値を5.6P下回っている。 ○今後も外国人講師と連携し、実践的な表現力を高める活動を行う必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	○校内平均正答率は、目標値を1.2P下回っており、区、全国の平均値においても下回っている。 ○英語に対する関心は高く、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を13.3P上回っている。また、区、全国平均値も上回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を5.5P上回っているが、区の平均値を7.1P、全国平均値を3.6P下回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課 題	具体的な授業改善策
1年	<p>○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着を図る工夫をする。</p> <p>○難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるよう確認テストなどの必要がある。</p> <p>○基礎学力が定着するように、授業の工夫が必要がある。</p>	<p>○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを行い、学んだ語法を使う活動を取り入れる。</p> <p>○学習した新出単語や文法事項を繰り返し学習するよう、小テストを行い家庭学習の習慣を図る。</p> <p>○外国人講師を効果的に活用し、実際に会話する場面を多く設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。</p>
2年	<p>○単語など基礎基本の定着を継続させながら、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。</p> <p>また、生徒一人一人に目標を持たせ、達成できたかを振り返りをさせていきたい。</p> <p>○内容別、観点別結果の分析から、書くこと(与えられた条件に応じて書く英作文)と読むこと(資料の読み取りや長文の要点の把握)の力をつけていく必要がある。</p>	<p>○新しい単元に入る前に、目標を考えさせ、単元テストの結果を通して、振り返りを行う。</p> <p>○教科書にある図やグラフなどの資料の読み取りの仕方を学ばせ、繰り返し問題文を解くことで読解力を養う。</p> <p>○定期的にまとまった文を読み、それについて英語で自らの意見を言ったり、書いたりする活動を取り入れ、英語を使えるという自信をもてるよう、授業を工夫していく。</p>
3年	<p>○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。</p> <p>○1, 2年の学習内容の定着に不安が見られる生徒がいるため、新出の文法事項を押さえつつ、復習内容を取り入れた授業展開が必要である。</p> <p>○内容別、観点別結果の分析から、読むこと(長文読解)、書くこと(三文以上の英作文)の力の定着を図る必要がある。</p>	<p>○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを行い、学んだ語法を使う活動を取り入れる。</p> <p>○定期的に1, 2年の復習問題練習や単元ごとの復習確認問題を取り入れていく。</p> <p>○テーマを決めて三文以上の英作文を書く活動を取り入れ、自分の考えや、理由などを学んだ単語や文法事項で表すことができるようにする。</p>